



祐介の目

ニユーギニア慰霊の旅

7月5日「永遠の四一」出版記念会を開催した。90歳を超える元兵士、高齢のご遺族にも参加いただき、改めて41連隊の歴史を偲び、不戦の誓いを新たにすることができた。

閉会后、その足で南海支隊戦友遺族会主催の東部ニユーギニア慰霊の旅に参加した。南海支隊は、福山41連隊と高知144連隊の合同編成であり、米豪連合軍の拠点ポートモレスビーを攻略するべく、武器・弾薬・食糧を背負い4千メートル級の山々が連なるスタンレー山脈を越えて進攻するという無謀な作戦に従事した。結果、補給が続かずポートモレスビーを目前にして反転し上陸地点の海岸陣地に追い詰められ、連合軍の圧倒的な砲爆撃により地獄の戦場と化した。

福山41連隊はその9割に相当する2千名が戦死したが、その多くは餓死や病死であり、高知144連隊も同様であった。

No.35

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

そのせいか、高知からは高知県知事代理・高知県議3名が参加され、県民の関心の高さをうかがわせた。対して福山からは市議1名であり、その差が鮮明であった。広島県・福山市は原爆と空襲に関しては熱心であるが、その他の戦争の歴史あまりに関心という印象を受ける。来年は敗戦から70年、福山からも多数参加して英霊の供養を行いたいものだ。

さて、現地ではランドクルーザーに分乗して悪路をひた走って数々の激戦地跡で慰霊祭を行い、大歓迎を受けた。パプアニユーギニア(PNG)は大変な親日国であり、住民曰く「戦争は良くない、しかしあの戦争が無ければ我々は以前のままであった。独立も発展も無かった」。戦争中、初代首相のソマレ氏は日本軍が現地に開設した学校の生徒であり、PNG独立後に初来日された際に恩師のキャプテン・シバタ(柴田中尉)との再会を望まれ、40年ぶりに再会を果たした。

私達と入れ違いで安倍総理もPNGを訪問し、慰霊碑に参拝してソマレ氏とも面談された。PNGは天然ガスやレアメタルの産出国であり、福山41連隊が両国の絆に深く関与していることを忘れてはならない。